

令和8年度 北区立小学校学力向上を図るための全体計画

令和8年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	3～6学年は目標値を上回ったが、2学年が目標値を1.7ポイント下回る結果となった。特に2学年の「書くこと」や6学年の「理由を明確にして記述する力」に課題がある。低学年からの文作り指導や、高学年での構成を考えた文章表現の指導を継続する。
社会	5学年は目標値を15.7ポイント上回り非常に良好だが、6学年は区平均を3.4ポイント下回った。資料を読み取る力や、複数の資料を関連付けて考える「思考・判断・表現」の力、用語（八方位など）の定着に一部課題が見られる。
算数	3～5学年は目標値を上回ったが、2学年と6学年が目標値を下回った。2学年の「時計・形」、6学年の「分数の計算」など、特定の基礎技能の不足が顕著である。図や言葉を用いた具体的なイメージ化と、数学的根拠に基づいた説明力の育成に重点を置く。
理科	5学年は前年度比12.2ポイント向上し良好だが、4学年と6学年が目標値を下回った。特に顕著な課題として、顕微鏡などの実験器具の操作技能や、理科学語（結露など）の定着、実験結果から論理的に考察する力が挙げられる。
外国語	全体の正答率は目標値を上回った。リスニングによる音声理解は極めて良好である一方、アルファベット（特に小文字の j, b, l, g など）を正確に書く活動に顕著な苦手意識やつまづきが見られる。

本校の教育目標
◎よく考える子
◎体をきたえる子
○思いやりのある子
○最後までやりぬく子

本校が児童に育成したい力
・「北区基礎・基本の定着度調査」等の結果を基に個に応じた指導を充実させ、「読み・書き・計算」の習熟と各教科の基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指す。 また、習熟度別指導、学力フォローアップ教室での補充等、組織的な指導体制や指導方法を工夫して更なる学力の向上を図る。 ・発達段階に応じた思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を養うとともに、基礎的・基本的な知識・技能を活用した発表や話し合い活動等の言語活動を充実させ、問題を解決する能力の育成を図る。 ・教科等の見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現のため、教科等横断的な指導を進めていく。また、授業観察による指導・助言や校内研究・研修の充実を通して授業改善を図る。

学力向上にかかわる経営方針
「学校は勉強をするところ 集団生活(社会性)を学ぶところ」 ・子どもが達成感と満足感を感じ、挑戦しようとする意欲をもつ学校づくりを推進 「確かな学力の定着」 ・少人数習熟度別指導、個に応じた指導・補充学習・家庭学習・校内研究

校内における学力向上推進体制
学力向上に関する特別委員会(研究推進委員会、学力向上・少人数推進委員会、通知表委員会、特別支援教育委員会)、分掌(授業改善推進プラン、学校図書館、放課後補充教室(学力フォローアップ教室)等を有機的に機能させ、児童の学力向上を図る。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・課題解決型・探究型授業の実践 ・児童に「わかる」「できる」喜びを味わわせる授業づくり ・学習活動「振り返り」の充実と継続 ・十分な教材研究によるねらいの明確化 ・児童が主体的に取り組む学習活動 ・GIGAスクール構想に基づく、きたコンの積極的な活用 ・WEBQ－U調査を活用した学級経営	・授業時間確保のための学校行事の継続的な見直し ・放課後補充教室(フォローアップ教室)の充実 ・きたコンを活用した学習タイムの推進(個別最適化した学習) ・日本語学級の充実と担任との連携 ・算数科少人数習熟度別指導(3～6年)による確かな学力の定着	・北区教育委員会および東京都小学校体育研究会の研究協力校として、体育科の健康課題をテーマとした授業改善と、自ら学び続ける力を仲間とともに身に付けていく授業の研究の推進 ・授業観察を通じた具体的な指導・助言の実施及び、組織的な授業改善 ・サブファミリー内での指導方法の共有 ・幼小中学校間の交流指導を通じた連携研修及び、義務教育9年間を見通した系統的な授業改善の推進	・児童の実態に即した評価規準に基づいた観点別評価の実施 ・評価規準や評価方法の工夫・改善(きたコンを利用したデジタルポートフォリオの活用) ・PDCAサイクルを意識した指導と評価の一体化	・保育園等との交流 ・ホームページの充実と更新 ・学校ボランティア、PTAとの連携 ・学校便りの発行(月1回) ・児童の変容を自身も保護者も感じる事ができるキャリアパスポートの活用

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（3年）

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
国語	全体の平均正答率（79.5％）は目標値（71.3％）と、区平均（79.5％）を上回っているもしくは、同等である。特に「話すこと・聞くこと（校内75.3％、区82.6％）」といった領域に課題が見られる。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」（校内89％、区89.6％）といった領域に課題が見られる。	要点を書きとめる「聞き取りメモ」の習慣化や、「理由を添えて話す・適切に質問を返す」といった対話の型を取り入れた日常的なペアワークを取り入れる。また、主語・述語の関係や語彙の基礎を固めを行い、作文などで、「習った言葉を実際に使って書く」活動を通して定着を図る。	話し方や書き方の決まった型を使い、要点を短くメモする練習から「話す・聞く・書く」基礎力を確実に養う。さらに、2つの短い文章や写真を見比べる活動を取り入れ、自分の考えを言葉で表現する思考力を育む。日常的に学んだ言葉を積極的に使わせていくことで、伝える楽しさを実感させていく。
社会	自分たちの住む「北区」について学習し、生活に身近な単元が多いことから、教材との出会いである導入に重点をおく。また、できるだけ見学や体験活動を取り入れ、気付きや疑問をもち、課題解決をしていこうとする意識を育てていく。学習した言葉や地図記号、方位を十分に活用できていない児童が多いため、学習したことを生活に生かせる指導の工夫が必要である。	資料からの読み取りや、地図帳の見方、地図記号など基礎的な内容は、ゲーム性のある活動を取り入れながら楽しく学習していく。学習問題作りや学習計画の立て方は児童の思いを引き出しながら丁寧に扱うことで、課題解決の意欲につなげていく。	ICTや資料、本や動画視聴などを活用して、教科書の資料の補充を行う。疑問や気付きをペアやグループで話し合わせる活動を取り入れ、ICTを活用して様々な思考ツール等を取り入れ、多様なまとめ方を体験させる。
算数	全体の平均正答率は（76.5％）は目標値（75％）を上回っているものの、区平均（80％）を3.5ポイントも下回っている。領域別にみると「数と計算」（75.1％）は4.3ポイント、「図形」（74.5％）は9.3ポイント区平均より下回っている。	数の仕組みや計算方法を確実に習得させるために、ドリルパークなどを活用し、計算を何度も繰り返し行う。図形では、正方形や長方形などの特徴を再確認するための時間を設ける。	数直線や位取り表で分数や大きな数を視覚的に理解させ、折り紙や定規を使った作図で三角形・四角形の特徴を掴ませて基礎を定着させる。生活の中の買い物問題や図形パズル等を通して実践的な生活力を伸ばしていく。
理科	2年生までの生活科で培ってきたことや、自分たちの生活経験をもとに問題設定を行う。観察や実験などを踏まえ、共通点や差違点を話し合わせ、結果のまとめにつなげていく。「植物を育てよう」や「チョウのかんさつ」の単元では、からだのつくりが理解できていない児童が3割程度いる。複数の種類の植物の成長の過程を比較する活動を通して、理解することができるようにする。	観察単元の多い学年であるため、観察対象である動物（チョウやバッタ等）や植物（ホウセンカやピーマン等）を実際に育てる活動を取り入れる。花壇や教室での飼育や栽培環境を整え、いつでも児童が世話をしたり観察したりできるようにする。また、観察や実験を行う際は、見通しをもつて行うことができるようにする。	ICTを活用した観察や実験も取り入れ、共通点や差違点に気付けるようにする。また、観察や実験の視点を与え、考察やまとめを自分で考えてできるように指導していく。